

くれよんが作業所 (就労継続支援B型=ひばり園と同じ) に

準備のため3月より1ヵ月間臨時休業します

4月5日(火)にリニューアルオープンして再開

事業形態が変わっても
リサイクルショップは変わりません

くれよんは最近、売上が落ち込み、その対策をいろいろ検討してきましたが、ひばり園と同じ就労継続支援B型の事業所とすることになりました。来年度からひばり園の一部としてお店を続けていくことになりました。最近の小売店はどこでも大型量販店にお客を奪われ苦しい経営を強いられています。この傾向は今後もますます加速されるでしょう。そこでいろいろ検討した結果、このような社会情勢の中で従来通りの経営方針では危ないと判断しました。

ひばり園の利用者にとっても、働く場が無くなって残念なことになります。そこでいままでのように利益を上げることが第一の目的にしたお店ではなく、障害のある利用者が働くことを主な目的にしたお店に変えることにしました。ひばり園と同じ就労継続支援B型の事業所とすれば、営業成績に左右されることなく、お店を継続することができそうです。

4月にリニューアルオープンする予定の新しくれよんではいまひばり園で働いている利用者の中から、5〜6名の希望者と職員が勤務することになります。くれよんは、障害のある人が一般のお客様と直接ふれあいながら働ける貴重な場所です。その意味で、そよかぜ

そよかぜだより

第105号
発行 2011. 2. 20
毎月1回発行
社会福祉法人
そよかぜ

連絡先

ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
エール 570-1233
スマイル工房 578-2723

資源回収時のご連絡は「ひばり園」へ

としても、くれよんはいつまでも大切にしたいと思っています。一ヶ月の臨時休業の間に準備と訓練を十分して、再開に備えます。どうぞこれからもいまままで同様に支援とご協力をよろしく願います。

ご協力ありがとうございました。 1月の募金 49,350円
(順不同) 平成22年4月~23年1月の合計 484,808円

高橋 典子 様	帯刀 幸子 様	天満 喜代子 様
加部 妙子 様	中原 幸政 様	北野 浩美 様
清水 賢 様	大野 元雄 様	増田 一仁 様
清水 知子 様	森田 勝 様	宇津木 忠雄 様
山下 暉枝 様	古沢 奈保美 様	大内 たま子 様
宇津木 牧夫 様	濱野 岬 様	関村 理 様
山崎 六雄 様	田村 由親子 様	関村 英希 様
橋本 亜紀子 様	田村 千佳 様	田中 明子 様
袴田 実 様	川崎 利男 様	平岡 知子 様
榎本 正代 様	清水 キヨ子 様	長谷川 キヌ子 様
尾又 恭子 様	角野 克子 様	角野 満壽子 様
土屋 三枝子 様	本間 正彦 様	吉野 満里子 様
阿部 郁子 様	下田 コウ 様	桜沢 富子 様
斉藤 忠 様	山影 幸子 様	田中 稔 様
竹内 照夫 様	小沢 達子 様	桜沢 喜作 様
永岡 智恵子 様	大野 素子 様	アバンバンティックス 様
榊八洋 様	匿名様(28,606円)	

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市栄町3-3-1
042-578-0855

くれよん1月の売上げ
640,880円でした。

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さっています。ありがとうございます。

社会福祉法人 そよかぜの

《資源回収》に

ご協力をお願いします
新聞、雑誌、ダンボール
(ボロは扱っていません)

1月は23,280tでした。金額は390,483円となりました。
この収益は、社会福祉法人そよかぜの運営資金になります。
みなさまのご協力ありがとうございました。

3月は第3日曜日20日です。

知的障害の人は「存在意義」など問いません

一日、一日を大切に生きます

その積み重ねが人生だというように

「遊びせんとや生まれけむ、戯（たはぶ）れせんとや生まれけん。遊ぶ子どもの声きけば、我が身さえこそ動（ゆる）がるれ」。この歌は今から千年も前の平安時代に、庶民が巷で歌っていたものだそうです。楽しそうに遊んでいる子どもたちを見てみると、子どもというものは遊ぶためにこの世に生まれてきたように思える。夢中ではしゃぎ廻っている子どもたちの声を聞いてみると、あくせくしている自分が恥ずかしくなってくる、とっています。

「遊びせんとや生まれけむ、戯（たはぶ）れせんとや生まれけん。遊ぶ子どもの声きけば、我が身さえこそ動（ゆる）がるれ」。この歌は今から千年も前の平安時代に、庶民が巷で歌っていたものだそうです。楽しそうに遊んでいる子どもたちを見てみると、子どもというものは遊ぶためにこの世に生まれてきたように思える。夢中ではしゃぎ廻っている子どもたちの声を聞いてみると、あくせくしている自分が恥ずかしくなってくる、とっています。

「遊びせんとや生まれけむ、戯（たはぶ）れせんとや生まれけん。遊ぶ子どもの声きけば、我が身さえこそ動（ゆる）がるれ」。この歌は今から千年も前の平安時代に、庶民が巷で歌っていたものだそうです。楽しそうに遊んでいる子どもたちを見てみると、子どもというものは遊ぶためにこの世に生まれてきたように思える。夢中ではしゃぎ廻っている子どもたちの声を聞いてみると、あくせくしている自分が恥ずかしくなってくる、とっています。

「遊びせんとや生まれけむ、戯（たはぶ）れせんとや生まれけん。遊ぶ子どもの声きけば、我が身さえこそ動（ゆる）がるれ」。この歌は今から千年も前の平安時代に、庶民が巷で歌っていたものだそうです。楽しそうに遊んでいる子どもたちを見てみると、子どもというものは遊ぶためにこの世に生まれてきたように思える。夢中ではしゃぎ廻っている子どもたちの声を聞いてみると、あくせくしている自分が恥ずかしくなってくる、とっています。

「遊びせんとや生まれけむ、戯（たはぶ）れせんとや生まれけん。遊ぶ子どもの声きけば、我が身さえこそ動（ゆる）がるれ」。この歌は今から千年も前の平安時代に、庶民が巷で歌っていたものだそうです。楽しそうに遊んでいる子どもたちを見てみると、子どもというものは遊ぶためにこの世に生まれてきたように思える。夢中ではしゃぎ廻っている子どもたちの声を聞いてみると、あくせくしている自分が恥ずかしくなってくる、とっています。

「遊びせんとや生まれけむ、戯（たはぶ）れせんとや生まれけん。遊ぶ子どもの声きけば、我が身さえこそ動（ゆる）がるれ」。この歌は今から千年も前の平安時代に、庶民が巷で歌っていたものだそうです。楽しそうに遊んでいる子どもたちを見てみると、子どもというものは遊ぶためにこの世に生まれてきたように思える。夢中ではしゃぎ廻っている子どもたちの声を聞いてみると、あくせくしている自分が恥ずかしくなってくる、とっています。